

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
			2・東書	第1・2・3学年	書写 701
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等		<p>○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～字形の整え方を確かめて書いたり、情報を整理した書き方を考えたりする活動を通して、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書く。</p> <p>第2学年～書体や筆記具を考えてはがきの裏面を書いたり、どのような観点で楷書と行書を使い分けるか考えたりする活動を通して、目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書く。</p> <p>第3学年～手書き文字の特徴を生かして効果的に書いたり、身の回りで見られる文字の特徴や工夫を考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く。</p> <p>○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～行書を書くときの動きに気を付けて書いたり、点画の連続や変化に注意して書いたりする活動を通して、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く。</p> <p>第2学年～点画の省略や筆順の変化に注意して書いたり、行書と仮名の調和に気を付けて書いたりする活動を通して、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。</p> <p>第3学年～書体を工夫して応援旗や絵はがきを書いたり、書体や線の太さなど、多様な文字の表現効果を考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く。</p> <p>○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～穂先の向きを意識した点画の書き方、行書を書くための筆の動きなど、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>第2学年～速く滑らかな動きのための点画の省略、行書と仮名の調和のための筆圧の変化と筆脈など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>第3学年～これまでの毛筆の学習を生かし、「思いを文字で表そう」において、卒業に向けた作品を硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、「書写のかぎ」を参考にして、点画の書き方や字形の整え方について考えたり、自分が書いた文字を使って学習したことを説明したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、「書写のかぎ」を参考にして、点画の省略について考えたり、自分が書いた文字を使って学習したことを説明したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第3学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、「書写のかぎ」を参考にして、身の回りの文字の目的と工夫について考えたり、学習したことについて、分かったことなどを話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p>			
内容の		<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年～楷書について点画の書き方と字形の整え方を確かめる活動の</p>			

<p>構成・ 排列、 分量等</p>	<p>後に、仮名の書き方や字形の特徴を理解して書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第2学年～行書について筆圧の変化や筆脈を確かめる活動の後に、行書に調和する仮名の特徴を理解して書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第3学年～身の回りの文字の目的と工夫を確かめる活動の後に、手書き文字の特徴を生かして、効果的に書く工夫を考える活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～硬筆は指導事項アが12ページ、イが6ページであり、毛筆は指導事項アが7ページ、イが6ページである。 第2学年～硬筆は指導事項アが8ページ、イが6ページであり、毛筆は指導事項アが6ページ、イが4ページである。 第3学年～硬筆は指導事項アが7ページ、毛筆は指導事項アが8ページである。 総ページ数は144ページで、前回より約1%減となっている。</p>
<p>使用上の 配慮等</p>	<p>○ 「本のポップ」や「パンフレット」など、国語科や他教科と関連を図った教材を掲載したり、「北海道庁」の石碑の写真に掲載したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 自らの理解度を客観的に評価することができる「書写テスト」や、巻末に教科の学習や日常生活の中でよく使う書式をまとめた「書写活用ブック」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 学習の進め方についてマークや写真で示すページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の 配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、年賀状を書く題材において、「北海道」の手本が示され、行書で自分の住所を書く活動が設定されており、日常の自分の住所を書く場面に活かすことができるよう工夫がなされている。</p> <p>○ ICTの活用については、「Dマーク」(QRコード)が掲載されており、毛筆で書く際に手本となる運筆動画、関連する国語科教科書の題材などを学習に活用できるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携による指導については、小学校で学習した内容を確認する単元「小学校の学習を振り返ろう」や、中学校の書写の学習に見通しを持つための「書写で学ぶこと」「学習の進め方」を設定するなどの配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<p>○ 毛筆等の学習で身に付けた力を、日常の書く活動へ活用できるよう、手紙や年賀状、ポスター、パンフレット、レポート、原稿用紙、入学願書などの書き方を題材として取り上げた「生活に広げよう」を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 生徒が見通しや目的意識を持って学習に取り組むことができるよう、単元ごとに、自ら課題を見付け、目的を明確にして学習に取り組むために試し書きをする「見つけよう」や、課題解決の見通しを持つことができる「書写のかぎ」を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 生徒が身に付けた書写の力を自覚できるよう、毛筆で書いた後に硬筆で書く「生かそう」や、単元ごとにまとめとして硬筆で書く活動を設定するなどの工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	<p>○ 生徒が日常の書く活動を行う際の手本として活用できるよう、巻末に常用漢字表を配置する工夫がなされている。</p>

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
			15・三省堂	第1・2・3学年	書写 702
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等		<p>○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～点画や部分の組立てに注意して書いたり、文字の大きさと配列を考えたりする活動を通して、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書く。</p> <p>第2学年～書体を選択してお礼状を書いたり、読み手や目的、状況に応じた楷書と行書の使い分けを考えたりする活動を通して、目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書く。</p> <p>第3学年～構成や用具・用材を決めて書いたり、効果的に文字を書くことの必要性について考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く。</p> <p>○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～点画の丸みや連続に注意して書いたり、点画の形や方向の変化に気を付けて書いたりする活動を通して、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く。</p> <p>第2学年～点画の省略や筆順の変化に注意して書いたり、筆脈を意識して流れるように書いたりする活動を通して、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。</p> <p>第3学年～好きな言葉を色紙や本のしおりに書いたり、手書き文字や活字のそれぞれの特徴や表現効果を考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く。</p> <p>○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～字形の整え方と楷書の点画の筆使い、横画や折れの丸みなど、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>第2学年～穂先を使った書き方による点画の省略、流れるように書くための筆脈など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>第3学年～これまでの毛筆の学習を生かし、「名言集を作ろう」において、中学校生活の中で出会ったお気に入りの言葉を硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～「目標を確かめよう」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、「書き方を学ぼう」を参考にして、字形の整え方と筆使いについて考えたり、学習したことが他の文字ではどこに使われているか説明したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2学年～「目標を確かめよう」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、「書き方を学ぼう」を参考にして、点画の省略について考えたり、学習したことが他の文字ではどこに使われているか説明したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第3学年～「目標を確かめよう」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、身の回りの生活の中から印象に残った文字の工夫や効果を考えたり、手書き文字や活字の例を参考にして、文字の魅力を話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p>			
内容の構成・		<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年～楷書について字形の整え方と筆使いを確かめる活動の後に、仮名の字形と筆使いを確かめて書く活動を取り上げるなど、</p>			

<p>排列，分量等</p>	<p>系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第2学年～行書について筆脈や仮名の形の違いを確かめる活動の後に，行書に調和する仮名の特徴を意識して書く活動を取り上げるなど，系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第3学年～手書き文字や活字による伝え方の変遷を確かめる活動の後に，効果的に文字を書くことの必要性について考える活動を取り上げるなど，系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については，次のようになっている。 第1学年～硬筆は指導事項アが4ページ，イが3ページであり，毛筆は指導事項アが5ページ，イが6ページである。 第2学年～硬筆は指導事項アが4ページ，イが2ページであり，毛筆は指導事項アが6ページ，イが2ページである。 第3学年～硬筆は指導事項アが2ページ，毛筆は指導事項アが4ページである。 総ページ数は128ページで，前回より約8%増となっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 「グループ新聞」や「情報誌」など，国語科や他教科と関連を図った教材を掲載したり，北海道にゆかりのある石川啄木の短歌を掲載したりするなど，生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 学習したことを実際に活用できているかを確認できる「自分の言葉でまとめよう」や，巻末に日常生活や社会生活で使われる書式をまとめた「日常の書式」を掲載するなど，主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 単元の基本構成と学習の流れについて説明するページを設けたり，全ての生徒が学習しやすいよう，カラーユニバーサルデザインを使用したりするなど，使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の配慮等</p>	<p>○ 地域素材については，都道府県の題材において，「北海道」の手本が示され，硬筆でなぞる活動が設定されており，日常の自分の住所を書く場面に活かすことができるよう工夫がなされている。</p> <p>○ ICTの活用については，二次元コード（QRコード）が掲載されており，姿勢と筆や鉛筆の持ち方，基本的な運筆などを学習に活用できるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携による指導については，小学校で学習した内容を確認する「基礎編 学習のはじめに」を設定するなどの配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の学習の状況等</p>	<p>○ 毛筆等の学習で身に付けた力を，日常の書く活動へ活用できるよう，新聞や情報誌，名言集，手紙，はがき，原稿用紙，入学願書などの書き方を題材として取り上げた「やってみよう」を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 生徒が見通しや目的意識を持って学習に取り組むことができるよう，单元ごとに，課題を明確にして学習に取り組むための「見つけよう・考えよう」や，課題解決の見通しを持つことができる「書き方を学ぼう」を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 生徒が身に付けた書写の力を自覚できるよう，单元ごとにまとめとして硬筆で書く「書いて身につけよう」を設定するなどの工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	<p>○ 生徒が日常の書く活動を行う際の手本として活用できるよう，巻末に常用漢字表を配置する工夫がなされている。</p>

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出	第1・2・3学年	書写 703	中学書写
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～字形の整え方や筆順のきまりに注意して書いたり、漢字と仮名の大きさを考えたりする活動を通して、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書く。</p> <p>第2学年～用紙や書体を工夫して案内状を書いたり、様々な書く場面に応じた楷書と行書の使い分けを考えたりする活動を通して、目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書く。</p> <p>第3学年～レイアウトや筆記用具を工夫して書いたり、身の回りで見かける文字の表現効果について考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く。</p> <p>○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～行書の筆使いに注意して書いたり、点画の連続と変化に気を付けて書いたりする活動を通して、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く。</p> <p>第2学年～点画の省略や筆順の変化に注意して書いたり、漢字と仮名の大きさ、配列に気を付けて書いたりする活動を通して、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。</p> <p>第3学年～配列に気を付けて俳句やメッセージカードを書いたり、石碑の文字の書体による表現効果を考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く。</p> <p>○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～穂先の向きや筆圧を意識した点画の書き方、行書の筆使いなど、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>第2学年～速く書くための筆脈を意識した筆の動き、行書に調和する平仮名を書くための筆使いなど、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>第3学年～これまでの毛筆の学習を生かし、「三年間の学習の成果を生かそう」において、未来の自分に向けた手紙を硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、「考えよう」を参考にして、筆脈や配列について考えたり、「筆脈」や「配列」など、書写の学習用語を用いて学習した内容について話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、「考えよう」を参考にして、点画の省略について考えたり、「点画の省略」や「筆順の変化」など、書写の学習用語を用いて学習した内容について話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第3学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、「考えよう」を参考にして、点画の形や方向の変化について考えたり、「点画の形」や「点画の方向の変化」など、書写の学習用語を用いて学習した内容について話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p>				
	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。				

<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<p>第1学年～楷書について筆脈や配列を確かめる活動の後に、漢字と仮名の大きさや行の中心を理解して書く活動を取り上げ、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第2学年～行書について点画の連続と配列を確かめる活動の後に、行書に調和する仮名の筆使いを確かめて書く活動を取り上げ、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第3学年～身の回りの多様な表現による文字を見付ける活動の後に、見付けた文字の効果についてレポートにまとめる活動を取り上げ、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～硬筆は指導事項アが9ページ、イが5ページであり、毛筆は指導事項アが10ページ、イが10ページである。 第2学年～硬筆は指導事項アが7ページ、イが6ページであり、毛筆は指導事項アが9ページ、イが4ページである。 第3学年～硬筆は指導事項アが5ページ、毛筆は指導事項アが5ページである。 総ページ数は144ページで、前回より約1%増となっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 「お薦めの本の帯」や「ポップ」など、国語科や他教科と関連を図った教材を掲載したり、北海道の「五稜郭跡」の石碑の写真に掲載したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 習得した知識を自ら書いて確かめる「書き込み欄」や、巻末に実社会で活用できる基本的な書式をまとめた「書式の教室」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 学習の進め方の手立てについて説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、都道府県の題材において、「北海道」の手本が示されているほか、「北海道新聞の題字」などの写真が掲載されており、身の回りの文字に親しみ、日常の自分の住所を書く場面に活かすことができるよう工夫がなされている。</p> <p>○ ICTの活用については、「学びリンク」(QRコード)が掲載されており、毛筆で書く際に手本となる運筆動画を学習に活用できるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小・中連携による指導については、各単元の学習における小学校の学びを振り返る活動や、中学校の書写の学習に見通しを持つための「学習の進め方」「書写を通して学んでいくこと」を設定するなどの配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の学習の状況等</p>	<p>○ 毛筆等の学習で身に付けた力を、日常の書く活動へ活用できるよう、冒頭で効果的なノートの書き方について学ぶほか、メモ、レポート、手紙、新聞、ポスター、原稿用紙、入学願書などの書き方などを取り上げた単元、題材を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 生徒が見通しや目的意識を持って学習に取り組むことができるよう、単元ごとに、自ら課題を見付け、目的を明確にして学習に取り組むための「試し書き」「考えよう」や、課題解決の見通しを持つことができ、キーワードを意識させる「考えよう」を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 生徒が身に付けた書写の力を自覚できるよう、毛筆で学んだ後に硬筆で書く「まとめ書きと応用」や、単元ごとに学びを生かして硬筆で書く活動を設定するなどの工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	<p>○ 生徒が日常の書く活動を行う際の手本として活用できるよう巻末に小中学校別に学習する漢字一覧表を配置する工夫がなされている。</p>

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
			38・光村	第1・2・3学年	書写 704
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等		<p>○ 硬筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～外形と中心や筆順に注意して書いたり、点画や部分の組み立て方を考えたりする活動を通して、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書く。</p> <p>第2学年～楷書又は行書を選択して入学願書を書いたり、場面に応じて楷書と行書のどちらで書くことが適しているかを考えたりする活動を通して、目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書く。</p> <p>第3学年～書体や筆記具、用紙を決めて書いたり、文字の使い分けやその効果について考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く。</p> <p>○ 毛筆については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～行書の筆使いに注意して書いたり、点画の変化に気を付けて書いたりする活動を通して、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く。</p> <p>第2学年～点画の省略や筆順の変化に注意して書いたり、筆脈を意識して、次の画や文字につなげるように書いたりする活動を通して、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。</p> <p>第3学年～これまでに学習したことを生かして自分の好きな言葉を書いたり、身の回りにある文字の書体による表現効果を考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く。</p> <p>○ 硬筆と毛筆の関連については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～筆圧や点画のつながりを意識した筆使い、滑らかに動かすための筆の運びなど、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>第2学年～次の画への筆脈を意識した穂先の動き、行書と仮名の調和を意識した筆脈など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>第3学年～これまでの毛筆の学習を生かし、「私の好きな言葉」において、これまでの学習で印象に残った言葉や書きたい言葉を硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、「学習の窓」を参考にして、漢字の筆使いについて考えたり、漢字を構成する点画の種類とその筆使いについて話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、「学習の窓」を参考にして、点画の省略について考えたり、楷書と行書を比べて、点画が省略される理由を話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第3学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、「学習の窓」を参考にして、効果的に伝えるための文字の使い分けについて考えたり、字体の違うそれぞれの文字から受ける印象とその理由を話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動</p>			

<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～楷書について調和する仮名の筆使いや字形を確かめる活動の後に、漢字と仮名の大きさや配列を意識して書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～行書について筆順の変化や筆脈を確かめる活動の後に、行書と仮名を調和させるために筆脈を意識して書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～身の回りにある様々な文字を確かめる活動の後に、文字の使い分けやその効果について、気付いたことを書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 <ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～硬筆は指導事項アが4ページ、イが4ページであり、毛筆は指導事項アが7ページ、イが5ページである。 第2学年～硬筆は指導事項アが5ページ、イが3ページであり、毛筆は指導事項アが7ページ、イが2ページである。 第3学年～硬筆は指導事項アが6ページ、毛筆は指導事項アが4ページである。 <p>総ページ数は157ページで、前回より約31%増となっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「枕草子」や「おくのほそ道」など、国語科と関連を図った教材を掲載したり、北海道の「BOYS BE AMBITIOUS」の石碑の写真を掲載したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 学習したことを確かめることができる「書写テストに挑戦しよう」や、巻末に日常生活に生かす書式を整理して示した「日常に役立つ書式」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 教科書の構成と学習の進め方について写真で示したページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザイン書体を使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。
<p>指導上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、都道府県の題材において、「北海道」の手本が示され、硬筆で書く活動が設定されており、日常の自分の住所を書く場面に活かすことができるよう工夫がなされている。 ○ ICTの活用については、二次元コード（QRコード）が掲載されており、毛筆で書く際に手本となる運筆動画、姿勢と筆や鉛筆の持ち方、文字に関わる資料などを学習に活用できるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、小学校で学習した内容を確認する「学習のはじめに」や、中学校の書写の学習に見通しを持つための「学習の進め方」を設定するなどの配慮がなされている。
<p>本市生徒の学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毛筆等の学習で身に付けた力を、日常の書く活動へ活用できるよう、手紙、はがき、入学願書、原稿用紙などの書き方を題材として取り上げた「日常に役立つ書式」を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 生徒が見通しや目的意識を持って学習に取り組むことができるよう、单元ごとに、課題を明確にして学習に取り組むための「考えよう」や、課題解決の見通しを持つことができる「学習の窓」を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 生徒が身に付けた書写の力を自覚できるよう、毛筆で学んだ後に硬筆で書く「生かそう」や、題材の学びを硬筆に生かす別冊「書写ブック」を設定するなどの工夫がなされている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が日常の書く活動を行う際の手本として活用できるよう、巻末に常用漢字表や人名用漢字表を配置する工夫がなされている。